（議長）
　えー、それでは、えー、出﨑議員、発言をお願い致します。

「出﨑議員」
　私からは、２問、質問致します。
　えー、一つ目。函館市の、えー連携中枢都市圏の対応について伺います。
　えー函館市は６月に、道南２市１６町で構成する南北海道定住自立圏の枠組みを発展させて、えー連携中枢都市圏に移行する方針と宣言致しました。えー渡島・檜山圏域の広域連携の従来の枠組みに、えー産業振興や都市機能の強化など、より広域的な地域経営へと軸足を広げるという事のようです。
　えー今後、圏域として新たなビジョンを策定し、各自治体との連携協約を来年３月までに締結し、えー同年４月の移行を目指すという事が報道されていました。
　そこで、以下お伺いします。一つ目、当町において、１４年３月の南北海道定住自立圏協定後、どのように連携し、活動して来たかをまずお伺いします。
　次に、今後、函館市の連携中枢都市圏に、えーどのように取り組む考えかをお伺いしたい。以上です。

「町長」
　議長。

（議長）
　町長。

「町長」
　出﨑議員の１問目、函館市の連携中枢都市圏への対応についてのご質問にお答えを致します。
　１点目の、えー南北海道定住自立圏における連携活動についてでございますが、江差町では平成２６年３月に函館市と定住自立圏の形成に関する協定を締結し、函館市を中心市とする渡島・檜山の１８市町において、圏域に必要な都市機能や生活機能の確保、安心して暮らせる定住自立圏の形成を目的に連携して取り組んで参りました。
　具体的にはドクターヘリの運行支援や脳疾患救急搬送体制の支援、えー運営支援など、広域救急医療体制の充実の為の取り組みや、北海道しん、あぁ、新幹線開業に伴う広域観光の推進、圏域内の交通ネットワークの形成に向けた道路整備期成会活動、職員等の合同研修等の取り組みを行ってきたところでございます。
　２点目の連携中枢都市圏への移行に対する取り組み方針についてでございますが、函館市が表明した連携中枢都市宣言は、これまでの定住自立圏の枠組を維持・発展させ、圏域全体の、えー経済成長の牽引と高次都市機能の集積・強化を図ると共に、圏域全体の生活関連機能サービスの向上を図る事を目指すものであり、町と致しましても、函館市との連

携を深めると共に、地域課題の取り組みが連携ビジョンにしっかりと反映されるよう対応して参りたいと考えており、おりますのでご理解願いたいと思います。

（議長）
出﨑議員。

「出﨑議員」
えー、再質問致します。
ま、函館市が、あの一道南自治体の中心的役割を果たすと言う事だと思います。その中には、あの一広域観光の推進で、ん一年間宿泊数１千万人を目指すとなったという事も掲げられています。
え一道南観光や渡島半島全体の防災力向上の為に、まぁ函館市の連携は、私は、推進すべきと考えております。
改正半島振興法を対象に、函館市は含まれていないんですが、まっ江差町は檜山地域の、えー、中心都市として、道南都市、市・町と連携し、奥尻島観光や渡島半島の強化に取り組んで欲しいと思うのですが、改めてお伺いします。

「まちづくり推進課長」
まちづくり推進課長。

（議長）
まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」
はい、あの、出﨑議員からの再質問にお答え致します。
えー、函館市との連携に関しまして、え一主に、観光或いは防災の観点からの、お一連携強化についてのご質問かと思います。えっ観光につきましては、あ一函館市では、あの２０３３年度までに、え一圏域で、え一年間宿泊者数、延べ１千万人、１千万人泊を、とする目標を掲げております。
え一連携中枢都市圏形成で取り組む、う一内容と致しましては、あ一圏域全体の、お一経済成長を牽引する施策の一つに、え一戦略的な観光施策を位置づけておりまして、広域観光の推進、え一圏域の、お一観光コンテンツの磨き上げと、圏域一体となった、あープロモーションの強化、に取り組む考えと言うふうに伺って、えーおります。江差町と致しましても、函館市或いは他の市町、奥尻島も含めまして、え一連携を強化して、え一取り組んで参りたいと考えております。
えー、防災に関してでございますが、あ一議員からは改正半島振興法の事も、お一触れられておりますが、半島防災の観点からも、お一道路整備或いは、あ一港湾の整備含めた、あ一渡島半島強靭化という事を、お一、が必要だと言うご質問だと思います。

えーこれまでも、お一定住自立圏の取り組みと致しましては、交通ネットワークの形成を位置づけまして、えー、道路等の交通インフラの整備についての要望活動を、も行ってきております。連携中枢都市圏に移行致しましても、引き続きーこれらにつきましては、施策として位置づけがされるよう進めて参りたいと考えております。

えー、港湾に関しましては、あー、洋上風力などの動きも踏まえまして、江差港の利用については、中長期的な、あー視点からのゾーニングの検討が必要と考えております。えー、半島防災の観点から、あー江差港が果たす、べき役割を踏まえまして、国など、国などに要望活動を行って、えー行きたいと言う事については、あー６月議会で、えー出﨑議員からの一般と、えー、しちも、一般質問でもお答えしている、うーところでございますが、えー具体的な活動、取り組みが、あー想定、えーされる段階でありましたら、こちらの連携中枢都市圏の、お一取り組みの中の方でもですね、位置づけをしながら、ああー、函館市と、お一共有して参りたいと考えておりますので、えーご理解をお願いしたいと思います。

（議長）

出﨑議員。

「出﨑議員」

はい、ありがとうございました。

えーと、次の質問に移ります。えー、えー、町のイベント開催について伺います。

えー町内のイベントが、えー減少してきているという事が話されています。イベントの開催は、町の活性化に必要と考えております。

８月にエコーで行われた、ほろよい盆踊りや、６月のいにしえ街道での江差バルなど、えーなるべく足を運ぶようにして、あの見ているんですが、残念ながら少し盛り上がりに欠けるように思います。

あのイベント開催の為には、まぁ労力が要るし、と、えぇ主催者の努力には、あの敬意を表しておりますが、えー、その為にもですね、個々のイベントに対して魅力づくりや足の確保など、町民が参加し満足出来るような支援の拡充を望んでおりますが、如何でしょうか。

「町長」

議長。

（議長）

町長。

「町長」

出﨑議員の２問目、町内イベント開催に関する町としての支援に関するご質問にお答え

致します。
　議員ご質問のイベントにつきましては、いずれも民間が主体となり、実行委員会をけ、え一組織しながら実施されたものでございまして、町と致しましては実施にあたってのご苦労やご尽力頂いた事に、え一感謝を、え一敬意を表しますと共に、町民や観光客の皆様が楽しめる場を提供して頂いた事に深く感謝しているところでございます。
　えっ議員からは、個々のイベント対しまして、町の支援拡充をのぞ、望むと言うご質問でございますが、町では公共施設へのポスター掲出や町広報折込チラシ、ＳＮＳと、ＳＮＳ等を活用した情報発信支援のほか、施設やテントなど備品類の貸し出し、また、イベント内容によっては、町のまちづくり交付金の活用の助言など、イベント、お一主催者側の意向を確認しながら適宜、対応して参りたいと考えております。
　え一町民は元より、来町される観光客にも楽しんで頂き、江差の魅力を広く伝える事が、あ一町の発展にも繋がるというふうに考えておりますので、町として可能な限りの対応をして参りたいと考えておりますので、ご理解頂ければなぁと思います。

（議長）
　出﨑議員。

「出﨑議員」
　え一、再質問致します。
　ちょっとあの一、私自身の事で恐縮なんですが、あの一、国内外にわたってですね、あの結構、町おこしの為のイベント見て歩く機会が多いんです。特に函館市でも色んなイベントや何かやってるんで、そういうの見て歩いた時にですねぇ、あの一やっぱり、え一その、町の活性化の為にですね、それから、リピーターの、あの町への観光客のリピーター、え一増加の為にですね、あの、非常に有効な手段だというふうに考えてます。
　え一、あの、例えば盆踊りなどですね、あの地域おこし協力隊員が発起人になって、え一今回新たに、え一江差にぎわい創出実行委員会、も、こういうものが発足して、え一、運営してたという事なんでですねぇ。この様な、新しい動きをですねぇ、いい、大事にして、ま、え一支援を続けて欲しいという、思っておりますが、その辺り如何でしょうか。

「追分観光課長」
　追分観光課長。

（議長）
　追分観光課長。

「追分観光課長」
　はい、え一出﨑議員からの再質問でございます。
　え一、まっ今回の盆踊りにつきましては、あの一、うちの方に、追分観光課に所属して

いる地域おこし協力隊の、あー、協力隊の一人がですね、まぁ発起人となりまして、えー、これが民間へ広がって実行委員会の発足となったところでございます。
　えーまぁこの様な動きにつきましては、非常に歓迎するところでございまして、えー担当と致しましてもですね、出来る限り、えー支援して参りたいと考えておりますので、ご理解頂ければと思います。

（議長）
　以上で、出﨑議員の一般質問を終わります。